

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671700262		
法人名	株式会社 ツツイ		
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ鴨島		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町鴨島208番地		
自己評価作成日	平成22年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700262&amp;SCD=320">http://kaigo.tokushakyo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3671700262&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成22年9月29日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者に対して礼節と尊厳を抱き接するように努め、親しみを常にもって安心や温かさを感じながら暮らせるよう支援している。事業所の社会的意義と責任を認識し、経営の安定とサービス水準の維持に努めている。定期的に近隣の子どものと交流する機会を設け、地域との関わりを大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

商業地に位置しながら、比較的静かな場所に立地している。周囲には量販店やスーパー、銀行などがあり利便性に恵まれている。管理者と職員は神社へのお参りや祭事、子ども会との交流などを通じて地域とのつながりを大切にしている。また、介護に対するモチベーションも高く、法人内外の勉強会や研修会に参加してサービスの質の向上に努めている。本年度から、吉野川市共通のアセスメント方式を導入し、質の高いケアを目指す取り組みが行われている。運営推進会議も定着し、議事内容を運営に反映させている。協力医療機関と連携し、24時間対応できるような体制を整備しており、利用者や家族が安心して過ごせるように支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を認識している。ミーティング等で理念や方針について日ごろから話し合っている。	事業所は、利用者がその人らしく暮らせるよう独自の理念をつくっている。管理者や職員は朝のミーティング時に話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、近くの神社へお参りに行ったりスーパーへ買い物に行き、地域の方と挨拶を交わしている。保育園児の来訪があり、クリスマス会等の行事を一緒に行っている。	外出時に、近所の方と挨拶を交わしている。天気の良い日には近くの神社へお参りに行ったり、保育園児と遊ぶなど地域の方とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護に関する相談を受け、アドバイスを行えるような体制を築いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。活動状況を報告し、参加者から意見や助言をいただいている。	2か月に1回、定期的で開催している。活動状況の報告を行い、家族からの要望や意見、市からのお知らせ等、活発に討議されサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、月初に市担当者へ現状報告をしている。吉野川市グループホーム協議会を立ち上げ、行政とともにサービスの質の向上に努めている。	吉野川市グループホーム連絡協議会を立ち上げ、意見交換や事例検討等を行っている。行政も参加し、ともにサービスの質の向上に努めている。運営推進会議には、市担当者が毎回参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合う機会を設けている。玄関は、扉を開放する時間をつくり閉鎖的にならないよう努めている。	管理者と職員は身体拘束の弊害を理解している。屋内は自由に移動でき、出かけた際には、なるべく一人ひとりに合った外出を支援している。家族の要望や交通事情、不審者の侵入等、安全面を考慮して玄関は施錠されている。	運営推進会議や家族会で継続的に話し合い、開錠に向けて取り組まれることが期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で高齢者虐待について話し合う機会を設けて、職員による虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用が必要な利用者はいない。今後、希望があれば対応できるように地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修に参加して、学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分に説明している。起こりうるリスクに関して、勤務体制等を説明し、同意を得ている。疑問点があればわかりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会で、意見や要望を聞いている。また、利用者との会話の中から要望を把握できるよう努め、意見や要望をミーティング等で話し合っている。	運営推進会議や家族会、家族の来訪時に意見や要望を聞き、検討している。日ごろの会話や表情から利用者の要望を把握し、話し合いを行ってサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を表しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、管理者は職員から個別に話を聞く機会を設けている。	管理者は、各ユニットリーダーから話を聞いている。職員が意見を表しやすい雰囲気づくりを心がけている。職員から個別に意見や要望を聞き、働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた相談やアドバイスを行っている。向上心も持って働けるような職場環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるよう配慮している。研修内容を全職員に周知し、情報を共有しサービスの質の向上に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、同業者と交流する機会を設けている。吉野川市グループホーム協議会を設置し、意見交換等を行ってサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と面談し、話をする機会を設けている。本人の置かれている状況の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に事業所へ来訪してもらい、家族の希望や要望をゆっくりと聞いている。自宅へ訪問し、落ちついた空間で話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域連携室やケアマネジャーからの紹介入居が多く、紹介時に意見交換を行い必要に応じて他のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が喜怒哀楽を共有できるような関係づくりを目指している。利用者の意見を尊重し、家庭的な雰囲気の中で一人ひとりが生き生きと生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時に日ごろの生活状況を報告したり相談をしている。家族から新たな情報を得るなど、協力してもらって利用者に必要なケアをともに考えている。月次報告を作成し、家族に送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の来訪時には、ゆったり過ごせるよう配慮している。	事業所の近隣に住む友人や知人の来訪があり、楽しい時間をともに過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関係や個性をうまく活かせるよう努めている。お茶や食事の時間は、職員もテーブルにつき、利用者同士の関係がうまくいくように話題を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居した方のお見舞いに行く等、関係を断ち切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から、希望や意向の把握に努めている。日ごろの表情や行動からも意思を汲み取り、把握するように努めている。	利用者との関わりの中から希望や意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、表情や態度から把握するように努めている。担当者会議の際は、本人本位に暮らすという視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、利用者との会話や家族・知人の来訪時にこれまでの生活状況について聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状態、できること・できないこと等を見極めて、全体像を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、ケアに反映させている。アセスメントを含め、職員間で意見交換を行って介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を取り入れ、関係者間で話し合い、本人がより良く暮らせるよう介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行って見直し、確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、食事・水分摂取量や排泄、体調管理等の具体的状況を記録して、介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者ニーズの把握に努め、求めている支援について柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で利用者が安心して暮らし続けられるよう、民生委員等に働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が、かかりつけ医となっている。入居時、夜間や緊急時の対応が可能である旨を十分に説明して理解を得てから同意を得ている。	協力医療機関の医師が主治医となっている。利用者や家族に十分に説明し、理解をしてもらい同意を得ている。歯科や眼科の受診は家族に同行してもらい、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日1回、協力医療機関の看護師が来訪し、日ごとの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護要約を作成し、利用者の情報を提供している。また、医療機関や家族と情報交換を行い、回復状況等を把握して早期退院に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、意思確認を行っている。事業所が対応できるケアについて説明している。日ごろから協力医療機関や看護師に体調管理をお願いし、状態に応じて対応できるよう連携を図っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針にそった説明を行い、利用者や家族の意向を把握して同意を得ている。段階ごとに家族やかかりつけ医、職員と意向を確認しながら対応方針の共有を図っている。重度化した場合の対応や看取りの体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急時対応についてのマニュアルを整備し、職員に周知徹底している。また、協力医療機関の開催する勉強会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。職員緊急連絡網を作成している。	年2回、消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。避難経路の確認や消火器の使用方法の訓練、利用者の誘導方法などを定期的に行っている。実施後の反省点を運営推進会議の議題として取り上げ、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損なわないように一人ひとりに合った声かけや対応を行っている。	職員は、職場内・外のプライバシー保護に関する研修会を受講している。また、利用者の表情や動作などから排泄のサインを察知するように努め、プライバシーに配慮した声かけやトイレでの排泄支援をさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの自己決定を尊重している。意思表示が困難な方には表情や反応から思いを汲み取るよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしている。職員の少ない時間帯での外出希望には、利用者に理由を説明して時間をおいて対応している。日曜日等は近隣の神社へ散歩に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時などは、利用者の意向で決めている。また、体調や天候に配慮し、季節に合わせた服装ができるようさりげなく声かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を使用するなど工夫している。職員と利用者が同じテーブルを囲み、話題を提供したりメニューについての感想を聞き、好みの把握に努めている。	食事は事業所内の厨房で調理されている。テーブル拭きや盛り付け、湯茶配り等を利用者の力に応じて手伝ってもらっている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、食事が楽しいものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、水分・栄養摂取量の把握に努めている。食欲がない場合は好みのもを提供するなど工夫している。補食として栄養流動食を用いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、口腔ケアを実施している。一人ひとりの力に応じて歯磨き準備などを手伝っている。義歯管理や手入れも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人ひとりに合ったトイレ誘導を行っている。できるだけリハビリパンツの使用を控えている。失敗時には自尊心に配慮した声かけを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は本人の気持ちを大切に、利用者が意思表示できるよう支援している。自尊心に配慮した声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品やスポーツ飲料水等で水分補給をこまめに行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるよう支援している。利用者の体調や希望に応じて入浴を支援している。夜間は入浴は行っていないが、清拭や足浴で対応している。	毎日入浴できるよう支援している。入浴時間は決まっているが、その時間帯で利用者の希望を聞いて一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や生活リズムを把握し、休息できるように支援している。夜間の行動が多い利用者には、落ち着ける環境を提供し、声かけ等を行い様子を観察している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	治療目的や用法、用量、副作用を把握している。薬の処方等に変更があったときは状態の観察を行っている。状態変化が見られるときは、医療機関に報告し、指示をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する力を見極め、本人に合った活動を支援している。季節の行事や近隣の保育園児との交流など楽しみごとの提供に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調に合わせた外出を支援している。また、家族に協力をお願いし、戸外に出かけられるよう努めている。	神社へのお参りや買い物など利用者の希望にそった支援をしている。彼岸のお墓参り等、特別な外出時には家族の協力を得て、本人の望みがかなえられるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの力に応じて、本人に金銭を管理してもらっている。買い物時は職員が付きそって声かけや見守りを行いながら自分で支払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や兄弟等に電話をかけられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品を作り、廊下やホールに飾っている。換気を行って室温管理に注意し、快適に過ごせるよう支援している。	利用者と職員が作成した作品を廊下やホールに掲示し、和やかな雰囲気づくりに配慮している。職員は季節感のある品を配置したり色々な掲示物を工夫し、居心地よく暮らせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を設置して一人でゆったり新聞を読むことができる寛ぎの場がある。ホールにはソファを置き、仲のよい利用者同士がゆったりできる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは備え付けとなっており、家具の持ち込みは少ない。写真や人形、造花を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の持ち込みは少ないが、家族の写真や人形、花を飾って自宅で生活しているかのように居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置して、段差のない造りになっている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を認識している。ミーティング等で理念や方針について日ごろから話し合っている。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を認識している。ミーティング等で理念や方針について日ごろから話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方と挨拶を交わし、交流を図っている。保育園児の来訪があり、敬老の日やクリスマス会等の行事を一緒に行っている。	地域の方と挨拶を交わし、交流を図っている。保育園児の来訪があり、敬老の日やクリスマス会等の行事を一緒に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護に関する相談を受け、アドバイスを行える体制を築いている。	地域の方から介護に関する相談を受け、アドバイスを行える体制を築いている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。活動状況を報告し、参加者から意見や助言をいただいている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。活動状況を報告し、参加者から意見や助言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、月初に市担当者へ現状報告をしている。吉野川市グループホーム協議会を立ち上げ、行政とともにサービスの質の向上に努めている。	毎月、月初に市担当者へ現状報告をしている。吉野川市グループホーム協議会を立ち上げ、行政とともにサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合う機会を設けている。玄関は、扉を開放する時間をつくり閉鎖的にならないよう努めている。	ミーティング等で身体拘束をしないケアについて話し合う機会を設けている。玄関は、扉を開放する時間をつくり閉鎖的にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で高齢者虐待について話し合う機会を設けて、職員による虐待防止に努めている。	ミーティング等で高齢者虐待について話し合う機会を設けて、職員による虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用が必要な利用者はいない。	現在、成年後見制度の利用が必要な利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分に説明している。起こりうるリスクに関して、勤務体制等を説明し、同意を得ている。疑問点があればわかりやすく説明している。	契約書や重要事項説明書に基づき、十分に説明している。起こりうるリスクに関して、勤務体制等を説明し、同意を得ている。疑問点があればわかりやすく説明している。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者や家族の意見や苦情を管理者に報告し、誠意を持って対応している。運営推進会議で話し合い、意見をいただいて運営に反映させている。	利用者や家族の意見や苦情に対し、誠意を持って対応するよう努めている。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから管理者とコミュニケーションを図り、相談しやすい関係をつくっている。対応や改善が必要な場合には、相談して実践につなげている。	ミーティング等で意見を表しやすい雰囲気づくりを心がけている。日ごろからコミュニケーションを図れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた相談やアドバイスを行っている。向上心を持って働けるような職場環境に配慮している。	職員の資格取得に向けた相談やアドバイスを行っている。向上心を持って働けるような職場環境に配慮している。職員数が十分とはいえ、職場環境が整っていない状況がある。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるよう配慮している。各ユニットごとに勉強会を行い、職員の資質向上に努めている。	年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるよう配慮している。研修内容を全職員に周知し、情報を共有してサービスの質の向上に活かしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会やグループホーム協会主催の相互評価事業に参加し、交流を図る機会を設けている。同業者と意見交換を行ってサービスの質の向上に努めている。	研修会やグループホーム協会主催の相互評価事業に参加し、交流を図る機会を設けている。同業者と意見交換を行ってサービスの質の向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っていることを把握して、安心してもらえるよう声かけをしている。	本人が置かれている状況を理解し、その人を知る努力をしている。本人に安心してもらえるような環境づくりを心がけている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に事業所へ来訪してもらい、家族の希望や要望をゆっくりと聞いている。利用前の状況を具体的に聞き、希望にそえるよう努めている。	家族の要望を理解した上で、事業所としてどのような対応ができるかについて、利用前に話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域連携室やケアマネジャーからの紹介入居が多く、紹介時に意見交換を行い必要に応じて他のサービスにつなげている。	地域連携室やケアマネジャーからの紹介入居が多く、紹介時に意見交換を行い必要に応じて他のサービスにつなげている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、尊敬の念を持ってともに支え合う関係を築いている。	利用者の気持ちや立場を考慮し、声かけ等に配慮して信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告を行い、家族に利用者の状況がわかるように連絡を密にとっている。	家族と意見交換を密に行うように心がけている。家族と同じような思いで利用者を支援できるよう話し合いの機会を持つよう努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の来訪時には、ともに過ごして関係を継続できるよう支援している。	近くの神社へ出かけ、地域の方と交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが起きないように職員が声かけをし、気分転換をするなど注意している。	利用者同士の関係を職員が把握し、感情の変化等に注意して見守りや声かけをしようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居した方のお見舞いに行く等、関係を断ち切らないよう努めている。	入院のため退居した方のお見舞いに行く等、関係を断ち切らないよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの表情や行動から利用者の思いを把握し、本人の意向にそった支援が行えるよう努めている。	利用者がどのように過ごしたいのか等、一人ひとりの思いを把握し、希望にそえるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や家族の来訪時に、これまでの生活状況等を聞き、これまでの生活スタイルに近い生活が送れるように支援している。	プライバシーに配慮しつつ、利用者との会話や家族・知人の来訪時にこれまでの生活状況について聞いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろの生活の中から、心身状態やできること・できないこと等の把握に努めている。	一人ひとりの趣味や興味のあることを見つけ、生活がマンネリ化しないように努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで意見交換を行い、家族の要望を取り入れて現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。アセスメントを含め職員間で意見交換し、モニタリングやカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員への申し送りを密にしている。職員間での気づきを大切にし、介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを作成し、食事・水分摂取量や排泄、体調管理等の具体的状況を記録して介護計画の見直しや評価を実施している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族とのコミュニケーションを大切にして、日ごろの状態や変化を報告している。その時々々のニーズを把握し、改善策を職員間で話し合って支援につなげている。	医療連携体制を整備し、医療処置を受けながら利用者の負担にならないよう生活を継続させている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で利用者が安心して暮らし続けられるよう、民生委員等に働きかけている。	心身状態を把握して、状態に合わせて豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、医師の訪問診療を受けている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医と協力し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日1回、協力医療機関の看護師が来訪し、日ごろの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。	1日1回、協力医療機関の看護師が来訪し、日ごろの健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護要約を作成し、利用者の情報を提供している。また、医療機関や家族と情報交換を行い、回復状況等を把握して早期退院に結びつけている。	介護要約を作成し、利用者の情報を提供している。また、医療機関や家族と情報交換を行い、回復状況等を把握して早期退院に結びつけている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、意思確認を行っている。事業所が対応できるケアについて説明している。日ごろから協力医療機関や看護師に体調管理をお願いし、状態に応じて対応できるよう連携を図っている。	重度化した場合の指針を作成し、意思確認を行っている。事業所が対応できるケアについて説明している。日ごろから協力医療機関や看護師に体調管理をお願いし、状態に応じて対応できるよう連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急時対応についてのマニュアルを整備し、職員に周知徹底している。また、協力医療機関の開催する勉強会に参加している。	夜間の緊急時対応についてのマニュアルを整備し、職員に周知徹底している。また、協力医療機関の開催する勉強会に参加している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。職員緊急連絡網を作成している。備蓄食を用意している。	年2回、避難訓練を実施している。消防署の協力を得て、避難経路の確認や消火器の使い方の訓練を定期的に行っている。職員緊急連絡網を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りや自尊心を傷つけないように言葉かけや対応に気をつけている。	利用者の誇りやプライバシーを損なわないように一人ひとりに合った声かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者の希望を把握して自己決定できるよう働きかけている。	日常生活の中で、利用者の希望を把握して自己決定できるよう働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、その人らしい自立した生活ができるように支援している。	一人ひとりの気持ちを尊重し、体調に配慮しながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や整髪で、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。	更衣時などは、利用者の意向で決めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を伝えて、食事への関心を引き起こすための工夫をしている。	利用者と職員と一緒に食事をし、介助が必要な方には食事介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者と職員が、同じテーブルで食事を摂り、量やバランス、水分量を観察している。一日の摂取量を確保できるよう、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取状況を記録し、一人ひとりの状態に応じて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、毎食後、口腔ケアを実施している。一人ひとりの力に応じて歯磨き準備などを手伝っている。義歯管理や手入れも行っている。	毎食後、歯磨きをしてもらっている。歯磨きができない方を手伝ったり、うがいをもらい、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを記録し、個々にあったトイレ誘導を行っている。失敗の回数を減らし、本人の気持ちを傷つけないよう声かけや支援を行っている。	排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導を行っている。失敗してしまった場合は、周囲に気づかれないように、また傷つかないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動などを行い、体を動かせる機会を設けている。また、水分補給を十分に行っている。利用者の状態に応じて下剤を使用し、随時医師に使用量等を相談している。	水分補給や適度な運動、おやつ工夫を行い、便秘予防に取り組んでいる。個々の状態に応じた下剤の使用量について相談している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴ができるよう支援している。利用者の体調や希望に応じて入浴を支援している。入浴を拒む方には言葉かけやトイレ後のタイミングで対応している。	毎日入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者には対応や言葉かけを工夫し、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーション活動を促し、うとうとしている時間が少なくなるよう支援している。	日中の活動を促して、生活リズムを整えられるよう努めている。寝つけない時には、温かい飲み物をすすめたり、話をするなどの配慮をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	治療目的や用法、用量、副作用を把握している。薬の処方等に変更があった時には状態の観察を行っている。状態変化が見られた時は、医療機関に報告して指示をもらっている。	治療目的や用法、用量、副作用を把握している。薬の処方等に変更があった時には状態の観察を行っている。状態変化が見られた時は、医療機関に報告して指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割活動としての洗濯物たたみや計算問題解き、ぬり絵等、日々変化を持たせて楽しめるよう支援している。	一人ひとりに合った楽しみや活動を見つけ、役割を担ってもらっている。本人のやりたいことをしてもらっている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のよい日は近くの神社へ出かけたり戸外へ花を見に行っている。利用者の希望に応じて美容院へ出かけられるよう支援している。	利用者の体調に合わせた外出を支援している。また、家族に協力をお願いし、戸外に出かけられるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2ユニット 実践状況	3ユニット 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力と理解を得て事業所が金銭を管理している利用者には、個別に預かり帳を作成して家族に報告し、サインをもらっている。	家族の協力と理解を得て事業所が金銭を管理している利用者には、個別に預かり帳を作成して家族に報告し、サインをもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて日常的に電話をかけたり、手紙が出せるよう支援している。	希望に応じて日常的に電話をかけたり、手紙が出せるよう支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品を利用者と職員が作り廊下やホールに飾っている。室温管理を行い居心地よく過ごせるよう支援している。	フロアの飾り付けを1か月ごとに替え、季節感を取り入れられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を設置して一人でゆったり新聞を読むことができる寛ぎの場がある。ホールにはソファを置き、仲のよい利用者同士がゆったりできる空間をつくっている。	廊下やホールにソファを設置して、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士でくつろげるスペースをつくっている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベッドは備え付けとなっていて、家具の持ち込みは少ない。誕生日のカードやぬり絵などの作品を壁に飾っている。	タンスやベッドは備え付けとなっていて、家具の持ち込みは少ない。写真を居室に飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置して、段差のない造りになっている。トイレの位置がわかるように貼り紙をしている。	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室トイレ、廊下等の住環境が適しているか見直し、安全確保につなげている。	